

1 入園料について

(1) 検討状況

- ◆旧有料エリアは約82,300㎡、今回の有料公開エリアは約2,300㎡と限られ、公開エリアの面積から入園料を設定することは現実的ではない
(旧有料エリア82,300㎡=500円、2019年10月時の公開エリア2,300㎡=14円)
- ◆公開エリアでは、熊本城の被災状況や天守閣等建造物・石垣の復旧過程工が間近に観覧できるなど付加価値が高いが、その価値に対する金額の設定は困難
- ◆他城郭の入園料の価格帯も500円付近が最多
- ◆従前(地震前)の500円の入園料収入で、年間を通じて公開できる2020年度の維持管理経費は賅える見込み
※ 熊本城の大部分は公園用地として財務省より国有財産法に基づく無償貸借のため、原則として、利益を上げることができない(国有財産法第22条第2項)
- ◆天守閣がフルオープンする2021年度以降は、天守閣内への新たな人員配置等の相当額の維持管理経費が継続して増大する見込み

(2) 入園料設定の方針(案)

(1)の検討を踏まえ、

①2020年度までは従前の500円

年間を通じて公開できるようになる2020年度の単年度収支において、現行の500円で維持管理経費を賅えるため、2020年度までは従前の500円設定 ※特別見学通路料金は別途徴収しない

②2021年度からの料金改定を検討

天守閣フルオープンに伴う新たな警備・案内など人員配置等の検討及び所要額の精査、将来の施設等の保全・撤去費用等の料金反映や利益の考え方の整理等を含め、2021年度からの料金改定を検討

<参考1>

○他城郭の入園料 ※対象城郭は来城者数の多い城郭等を基に16城郭を選定

- ・他城郭の入園料は、最高額が姫路城の1,000円、最低額は岡山城の300円
- ・平均額は548円
- ・500円付近の価格帯は5城郭で最多

<他城郭入園料(H31.1月現在)>

①姫路城	1,000円	⑤松本城	610円	⑨松山城	510円	⑬若松城	410円
②首里城	820円	⑥二条城	600円	⑩名古屋城	500円	⑭長浜城	400円
③彦根城	800円	⑦大阪城	600円	⑪竹田城	500円	⑮弘前城	310円
④松江城	670円	⑧犬山城	550円	⑫小田原城	500円	⑯岡山城	300円

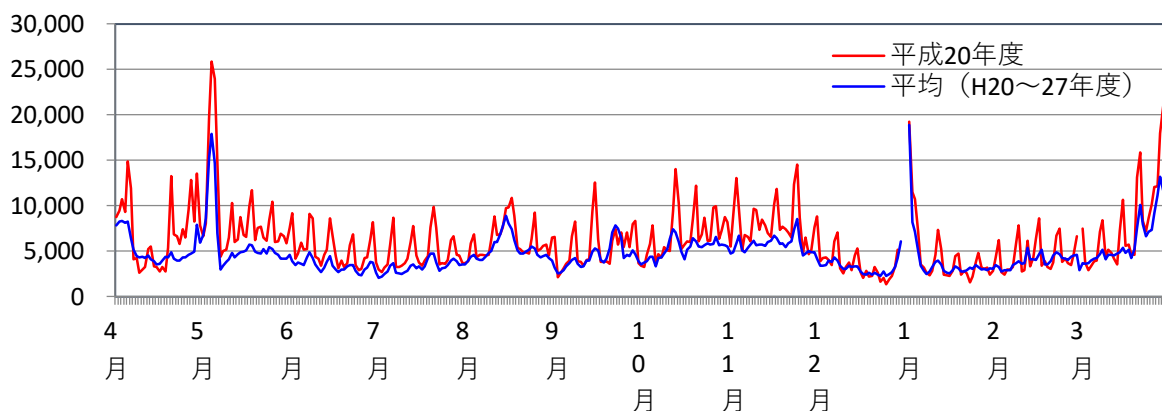
<参考2>

○来城者数の推計

年度	来城者数(見込)	備考
2019年度	約 52万人	原則日祝(記念週間等は土曜日も公開)
2020年度	約219万人	特別見学通路整備後は平日も公開
(参考)2016年度	(参考)約177万人	

- ・過去最高の入園者数(約25,900人/日)を記録した本丸御殿大広間落成時の平成20年度の来城者実績及び来城者トレンド、過去の来場者実績等を基に来城者数を推計

※H20年度の来城者トレンドと過去8年間(H20年度～H27年度)の来城者トレンドに大きな乖離なし



- ・他城郭でも特段参考となる見込み手法なし(過去実績による見込みのみ)

2 共通券について

①「熊本城・わくわく座共通券」の販売再開

- ・2019年10月の特別公開時から販売を再開予定
- ・販売場所は二の丸料金所及び城彩苑料金所を予定
- ・金額は、従前のおり600円で調整中(熊本城の入園料500円を前提)

②「熊本城・わくわく座・熊本博物館共通券」の新共通券の販売検討

- ・天守閣の展示刷新に伴い、わくわく座・天守閣・熊本博物館等との連携・課題等を整理する中、地震前に天守閣内で展示していた国指定重要文化財「波奈之丸」も熊本博物館に移設・常設展示
- ・各施設の役割分担等による更なる連携を図るため、市3施設の新共通券の販売を検討中
 - ※早ければ2019年10月の特別公開時からの販売を目指し、料金・運用について各施設と協議中
- ・県施設も含めた共通券についても観光部局を中心に別途検討中